

## 6. 国際交流活動

### 6.1. 国際海事大学連合

国際海事大学連合（IAMU : International Association of Maritime University）は、商船教育に携わる世界の4年制大学の連合組織であり、1999年に神戸商船大学（現 神戸大学海事科学研究科）を含む7つの大学が発起して設立された。2010年度現在では43大学が加盟する組織に成長し、商船教育の世界的な水準向上と海上交通の安全確保のための調査・研究を活性化し、国際海事社会の安定と隆盛に大きく貢献している。神戸大学は、IAMUの発起大学のひとつとして、同組織の運営に継続的に参画しており、毎年開催される総会ならびに学術講演会でも主要な役割を果たしている。IAMUの活動組織は、図6-1に示すように、議長（Chair）を含む運営会議（IEB : International Executive Board）を核として、作業部会（Standing Committees）で組織の運営にあたっている。海事科学研究科からは、研究科代表（研究科長）がIEBメンバーとして参加してIAMUの運営において主導的な役割を果たすとともに、作業部会にも適宜委員を参画させ、組織運営に寄与している。

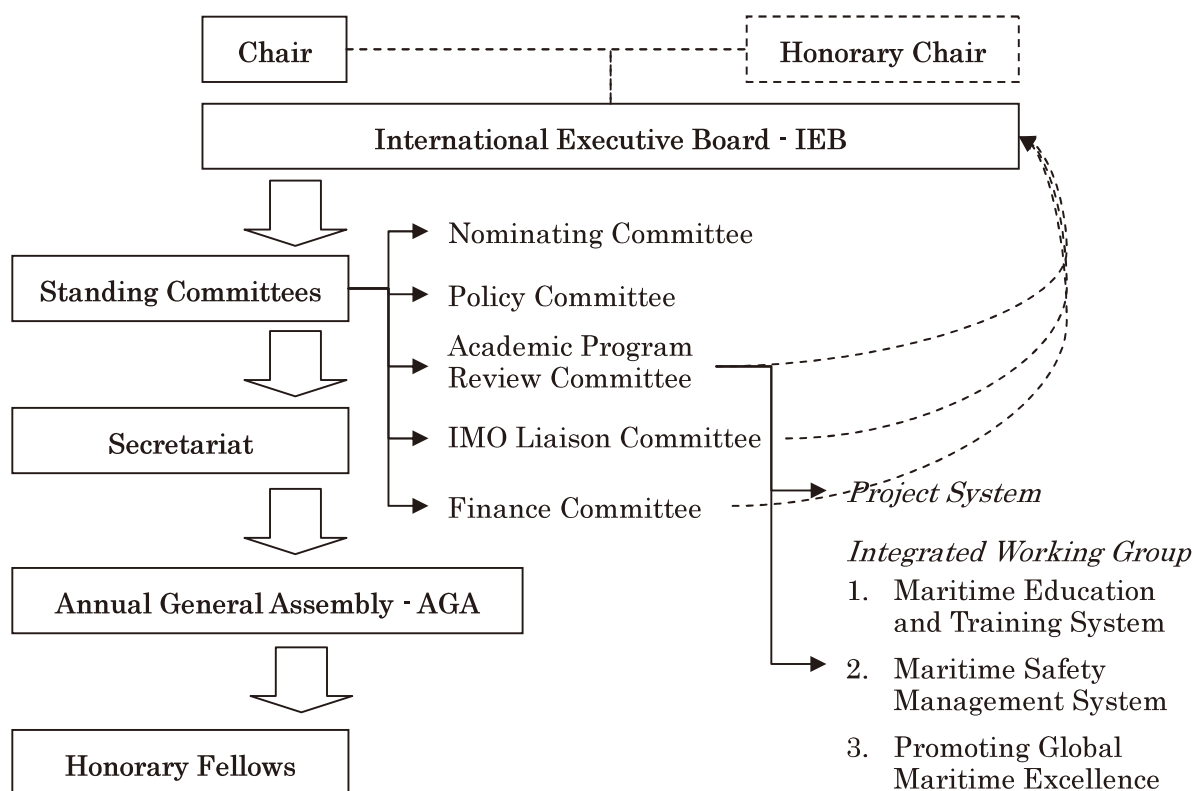


図 6-1.IAMU 組織構成

#### 年次総会（AGA : Annual General Assembly）

IAMUでは、全加盟大学代表者が集い、組織の運営に関する決議と学術的な情報交換を

行う年次総会を開催している。2004年（第5回）～2010年（第11回）までの開催実績を表6・1に示す。年次総会には、毎回、日本から多数の参加があり、学術講演会では常に主導的な役割を果たしており、日本からの寄与の中でも神戸大学は主要な部分を占めている。

表 6-1. IAMU 年次総会 開催実績

| 年度         | 回・日程                        | 開催場所  | 出席者 |     |
|------------|-----------------------------|---|-----|-----|
|            |                             |   | 総数  | 神戸大 |
| 2004 (H16) | 5th AGA,<br>Nov. 8th-11th   | Australian Maritime College,<br>Tasmania, AUSTRALIA                 | 97  | 10  |
| 2005 (H17) | 6th AGA<br>Oct. 24th-26th   | World Maritime University,<br>Malmo, SWEDEN                         | 123 | 11  |
| 2006 (H18) | 7th AGA<br>Oct. 16th-19th   | Dalian Maritime University,<br>Dalian, CHINA                        | 89  | 6   |
| 2007 (H19) | 8th AGA<br>Sept. 17th-19th  | Odessa National Maritime Academy<br>Odessa, UKRAINE                 | 97  | 8   |
| 2008 (H20) | 9th AGA<br>Oct. 19th-22nd   | California Maritime Academy<br>San Francisco California, USA        | 108 | 10  |
| 2009 (H21) | 10th AGA<br>Sept. 19th-21st | Admiral Makarov State Maritime Academy,<br>Saint-Petersburg, RUSSIA | 136 | 2   |
| 2010 (H22) | 11th AGA<br>Oct. 15th-18th  | Korea Maritime University,<br>Busan, KOREA                          | 122 | 6   |

また、2004年からIAMUの目標である「次世代型海事教育訓練」「海事安全管理」「統一カリキュラム」「統一海技免状」のそれぞれの面から同時に取り組むことができる「年間統一テーマ」を定め会員大学が共同で調査研究活動を行うこととなった。2010年までの年間統一テーマは、表6・2に示すとおりであり、神戸大学でもこれに沿った研究活動の展開を続けている。

表 6-2. IAMU 年間統一テーマ一覧

| 年度         | テーマ名   |
|------------|--|
| 2004 (H16) | Advances in International Maritime Research  |
| 2005 (H17) | Maritime Security and MET  |
| 2006 (H18) | Globalization and MET  |
| 2007 (H19) | World Maritime Excellence  |
| 2008 (H20) | Common seas, Common shores: The New Maritime community   |
| 2009 (H21) | MET Trends in the XXI Century: Shipping Industry and Training<br>Institution in the Global Environment-area of mutual interests and<br>cooperation |
| 2010 (H22) | Technical Cooperation in Maritime Education and Training   |

### 作業部会 (Standing Committees)

IAMU の具体的な作業は、次に示す 5 つの作業部会に分かれて進められ、これらの部会と事務局 (Secretariat) が実質的な組織活動にあっている。

Nominating Committee (加盟審査委員会)

Policy Committee (企画委員会)

Academic Program Review Committee (学術審査委員会)

Finance Committee (財務委員会)

IMO Liaison Committee (IMO 連携委員会)

神戸大学からは、各委員会に適宜委員を派遣し、組織活動に貢献してきた。IAMU の発足当時は、主任副議長 (Senior Vice Chair) を神戸商船大学長が勤め、現在は神戸大学から研究科長が財務委員会委員長として運営に参画し、IAMU への積極的な貢献を行っている。

### 会員提案制度 (Project System)

IAMU では、2003 年から会員から調査・研究プロジェクトの提案を募り、優秀なプロジェクト活動への支援を行う精度を設けている。本システムには、毎年多くの応募があるが、神戸大学からはこれまでに下記のプロジェクトが採択された。

期間：2003－2004

課題名：Study on Systematic Usage of Ship Handling Simulator in Maritime Education and Trainging (海事教育における操船シミュレータの活用に関する研究)

※ 神戸大学、大連海事大学 (中国)、木浦海洋大学校 (韓国)、  
イスタンブール工科大学 (トルコ) による共同研究

期間：2010－2011

課題名：Research of algorithm of collect valuable information MET system IAMU Members Institution and Human Resource Database of IAMU member Institutions

(IAMU 加盟大学・加盟機関の海事教育システムと海事人材データベースに関する調査研究)

※ 神戸大学、オデッサ海事大学 (ウクライナ)、グディニア海事大学 (ポーランド)、  
韓国海洋大学校 (韓国)、大連海事大学 (中国) による共同研究

## 6.2. 学術交流協定

2011 年 3 月現在、海事科学研究科が締結している学術交流協定校は、表 6-3 に示すように 18 校である。このうち 12 校は神戸商船大学当時に締結した協定を神戸大学との統合時に更新したものであり、協定締結年月は平成 15 年 10 月となっている。海事科学研究科では、神戸大学との統合後、新たに 6 校との協定締結を行い、積極的に国際交流活動の活性化に努めている。協定校は、海事教育に携わる大学を中心に、アジア、欧州、北米へと展

開しているが、近年では高水準の研究指向を強めた学術協定への展開を視野に入れ、活動の領域を広げている。

表 6・3 海事科学研究科が締結している国際交流協定校一覧

| 協定大学名                               | 国名      | 協定年月日    |
|-------------------------------------|---------|----------|
| 上海海事大学                              | 中国      | H15.10.1 |
| 韓国海洋大学校                             | 韓国      | H15.10.6 |
| 大連海事大学                              | 中国      | H15.10.1 |
| 国立群山大学校                             | 韓国      | H15.10.1 |
| 世界海事大学                              | スウェーデン  | H15.10.1 |
| スラバヤ工科大学                            | インドネシア  | H15.10.1 |
| イスタンブール工科大学                         | トルコ     | H15.10.1 |
| オーストラリア商船大学                         | オーストラリア | H15.10.1 |
| 国立台湾海洋大学                            | 台湾      | H15.10.1 |
| メイン海事大学                             | アメリカ    | H15.10.1 |
| 木浦海洋大学校                             | 韓国      | H15.10.1 |
| カリフォルニア海事大学                         | アメリカ    | H15.10.1 |
| カーディフ大学                             | イギリス    | H17.9.1  |
| 国立済州大学校                             | 韓国      | H16.4.8  |
| 中国海洋大学                              | 中国      | H18.9.6  |
| フィリピン大学ディリマン校                       | フィリピン   | H17.12.9 |
| 国立高雄海洋科技大学                          | 台湾      | H22.4.14 |
| 上海交通大学 (船舶海洋・建築<br>工程学院, 機械・動力工程学院) | 中国      | H22.5.10 |

海事科学研究科の外国人研究者の受入れ、教員の海外渡航の実績の推移を表6・4に示す。いずれの年度においても教員の海外渡航の実績は平均1人1回以上であり、国際会議への参加、共同研究、調査研究など、本研究科の盛んな国際活動を反映するものである。また、外国人研究者の受入は増加傾向にある。

表 6-4 研究者交流数の推移

| 年 度       | 外国人研究者の<br>受入件数 | 教員の外国出張<br>および研修渡航件数 |
|-----------|-----------------|----------------------|
| 2004(H16) | 11              | 88                   |
| 2005(H17) | 21              | 93                   |
| 2006(H18) | 24              | 103                  |
| 2007(H19) | 11              | 73                   |
| 2008(H20) | 9               | 83                   |
| 2009(H21) | 19              | 88                   |

### 6.3. 学生交流活動

#### 6.3.1 留学生の受入れ

本研究科では、教育の国際通用性の向上と世界に広がる学術ネットワークの拡充を目指し、海外からの留学生の受入れを積極的に行っている。表 6-5 に、本研究科における留学生在籍者数の推移を示す。大学院生を中心に学部生、非正規生を合わせて 50 名～80 名の留学生在が恒常的に在籍している。留学生の募集にあたっては、優れた学生を安定して確保するために、大学院前期課程の入試制度に外国人留学生特別選抜を導入している。また、諸外国の事情に対応できるように、入学時期については、通常の 4 月入学に加えて 10 月入学も可能とし、さらに優秀な学生には早期修了も可能として、留学生にとっての利便性向上に努めている。

表 6-5 留学生の受け入れ状況の推移

| 年度        | 学部 | 大学院生 | 研究生 | 合計 |
|-----------|----|------|-----|----|
| 2004(H16) | 7  | 52   | 21  | 80 |
| 2005(H17) | 8  | 49   | 26  | 83 |
| 2006(H18) | 5  | 48   | 26  | 79 |
| 2007(H19) | 4  | 53   | 18  | 75 |
| 2008(H20) | 4  | 49   | 24  | 77 |
| 2009(H21) | 1  | 38   | 18  | 57 |
| 2010(H22) | 1  | 33   | 21  | 55 |

教育システムにおける留学生への対応としては、平成19年度から「アジアにおける海事科学リーダー養成プログラム」を導入し、国費外国人留学生大学推薦（特別枠）を適用した滞在環境の充実と、主に英語で行われる講義群、前期課程と後期課程を合わせた5年間の一貫教育システムの実施を行っている。本プログラムにより、アジアを中心とした優秀な人材の育成と輩出を実現し、修了生が母国における海事科学関連分野でのリーダーとなり、

活躍することが期待される。これにより、本研究科を中心とする国際ネットワークの構築・強化が可能となるものと考えられる。

### 6.3.2 学生交流事業の推進

本研究科では、留学生の受入れとは別に、種々の学生交流事業を推進している。事業は、学術交流協定校学生のキャンパス訪問や学生セミナーの開催などの海外学生の受入れと、本学学生の海外でのシンポジウムへの参加、インターンシップや特別研修の実施などの派遣事業を行っている。

#### 自然災害対策法と学生ボランティア活動に関するセミナー

平成21年8月23日～9月4日（14日間）

日本学生支援機構の援助を受け、学術交流協定校のひとつであるスラバヤ工科大学（インドネシア）から学生12名と教員2名を神戸に招聘し、本学学生との交流ならびにセミナーを実施した。本プログラムは、海事科学研究科が中心となり、農学研究科、工学研究科、医学研究科の協力を得て、多彩な内容のセミナーの実施と自然災害関連の施設見学（人と防災未来センター、野島断層記念館、深江丸を用いた海上からの視察）を行い、充実したプログラムの実施を実現した。セミナーで行われた講演の内容を表6・6に示す。本セミナーでは、神戸大学から参加した本学学生25名と教員5名が、2週間にわたりセミナー参加のインドネシア学生と生活を共にすることにより、異文化との交流の中で国際コミュニケーションの難しさと楽しさを体験させることのできたプログラムとして、高く評価されている。

表6・6 セミナーにおける講演・講義一覧

| 種別   | 講演表題                    | 講演者                          |
|------|-------------------------|------------------------------|
| 基調講演 | 神戸大学の国際戦略               | 中村千春<br>神戸大学理事               |
| 基調講演 | スラバヤ工科大学の紹介とインドネシアの大学教育 | Dr. Baliwangi<br>スラバヤ工科大学准教授 |
| 講義   | 阪神大震災の教訓                | 田中泰雄<br>神戸大学工学研究科教授          |
| 講義   | 災害医療の在り方                | 石川雄一<br>神戸大学医学研究科教授          |
| 講義   | インドネシア海事自然災害            | Dr. Wahydi<br>スラバヤ工科大学准教授    |
| 講義   | 日本・兵庫における防災について         | 多治比 寛・人と防災未来センター事業部主幹        |
| 講義   | ボランティア船の活用              | 石田憲治<br>神戸大学海事科学研究科教授        |
| 講義   | 災害と職の安全                 | 大澤 朗<br>神戸大学農学研究科教授          |

## 海事科学に関する東アジア国際学生シンポジウム

平成22年10月12日～17日（6日間）

本学が主催して、東アジアの学生が神戸に集い、学生が主体となって行う学術シンポジウムの開催を行った。シンポジウムには、海外から8大学・28名、国内から8大学・22名、合計50名の学生ならびに教員の参加があり、それに加えて学内から部分参加の学生、教員（32名）が出席した。シンポジウム参加者の国別内訳を表6・7に示す。本プログラム参加者は、翌日から開催されたテクノオーシャン2010のポスターセッションにおいても研究成果発表を行うとともに、本プログラムが独自に企画した文化体験プログラム（三菱重工業神戸造船所見学、漁業体験、明石海峡大橋見学）に参加した。

表6・7 東アジア学生シンポジウム参加者数一覧

|              | 学生 | 教員 | 小計 |
|--------------|----|----|----|
| 韓国：3 大学      | 8  | 3  | 11 |
| 中国：2 大学      | 4  | 2  | 6  |
| 台湾：2 大学      | 5  | 3  | 8  |
| インドネシア：1 大学  | 2  | 1  | 3  |
| 神戸大学         | 10 | 4  | 14 |
| その他（国内）：7 大学 | 8  | —  | 8  |
| 合 計          | 37 | 13 | 50 |

【海外参加大学】 韓国海洋大学校(3)、木浦海洋大学校(3)、釜山大学(5)、上海交通大学(3)、大連海事大学(3)、台湾海洋大学(3)、高雄海洋科技大学(5)、スラバヤ工科大学(3)

【国内参加大学】 神戸大学(10)、東京大学(1)、東京海洋大学(1)、大阪大学(1)、大阪府立大学(2)、徳島大学(1)、広島大学(1)、九州大学(1)

※ 括弧内数字は、各校参加者数(教員を含む)

## 海外学生特別研修

学部生を対象に、海外協定校で2週間程度の研修を行うプログラムを実施した。本研修は、カリフォルニア海事大学（米国）において、海事セキュリティ管理と実用英語に関する研修を行うもので、英語による専門教育の受講と異文化環境の生活の中で国際性を磨くことを目的として始められた。本プログラムは学部3、4回生を対象に2年に1回実施することとし、学生の国際交流への関心度と英語教育に対する意識の向上を図る上で、大きく貢献している。

### 第1回特別研修

期間：平成20年3月16日～31日（16日間）

参加者：4回生：9名、教員：2名 合計11名

### 第2回特別研修

期間：平成21年9月13日～28日（16日間）

参加者：3回生：2名、4回生：4名、教員：1名 合計7名

### 国際インターンシップ

大学院生を対象に、約1ヶ月間の国際インターンシップを実施している。国際インターンシップ派遣実績を表6・8に示す。平成16年度～22年度の期間においては、社団法人日本海事検定協会の協力を得て、シンガポール事務所へ大学院生を派遣して、インターンシップを実施した。平成21年度ならびに22年度については、隣国のマレーシア、タイでの活動に広げて、インターンシップを実施している。

表6・8 国際インターンシップ派遣実績

| 年度 | 派遣先                   | 派遣者数 | 期間                        |
|----|-----------------------|------|---------------------------|
| 16 | (社)日本海事検定協会、シンガポール事務所 | 2    | 平成16年11月21日～12月20日 (30日間) |
| 17 |                       | 1    | 平成17年 8月17日～ 9月17日 (32日間) |
| 18 |                       | 1    | 平成19年 3月 4日～ 3月19日 (15日間) |
| 19 |                       | 1    | 平成19年 8月26日～ 9月18日 (24日間) |
| 20 |                       | 1    | 平成20年11月27日～12月21日 (26日間) |
| 21 |                       | 2    | 平成21年10月18日～11月 8日 (22日間) |
| 22 |                       | 2    | 平成22年10月31日～11月21日 (22日間) |

### 国際海事大学連合学生会議

6.1節でも述べたが、IAMUは海事教育に携わる4年制大学の連合組織であるが、毎年開催される年次総会に併催して学生会議（IAMUS）が開催される。神戸大学からは、毎回2～3名の学生を派遣し、海外の商船大学に在学する学生との交流を進めるとともに、本学学生の国際性を向上を図っている。

### 英語講習会

学生の英語能力の向上を目指して、TOEIC講習会ならびにサテライト講習会を実施した。講習会の開催実績を表6・9に示す。TOEIC講習会は、TOEIC試験の受験を想定して集中講義形式で行われる講習会である。本学では、大学院前期課程の入学試験にTOEICの受験を義務づけているほか、本学で実施する特別英語研修(カリフォルニア, 米国)の選考にTOEICの得点を重視して行うなどより、TOEIC試験に対する学生の関心を高める工夫を施しており、学生のモチベーションの向上を図っている。また、サテライト講習会は、学外の語学教室から講師を派遣させ、講習費用の一部を大学が援助するなどの支援を与え、学生の利便性と効率性を向上させる取り組みである。



表6-9 英語講習開催実績

| TOEIC講習会   |       |      |
|------------|-------|------|
| 開催年月       | 開催日数  | 参加者数 |
| 平成20年6月    | 6日間   | 50名  |
| 平成20年9月    | 3日間   | 117名 |
| 平成21年9月    | 3日間   | 80名  |
| 平成22年9月    | 3日間   | 45名  |
| サテライト英語講習会 |       |      |
| 開催時期       | 開催数   | 参加者  |
| 平成21年度前期   | 全5クラス | 43名  |
| 平成21年度後期   | 全5クラス | 27名  |
| 平成22年度前期   | 全3クラス | 20名  |
| 平成22年度後期   | 1クラス  | 3名   |